

# 農業共済新聞



公益社団法人  
全国農業共済協会

〒102-8411  
東京都千代田区一番町19番地  
購読 ☎03-3263-6413  
編集 ☎03-3263-6727  
月4回・水曜日発行  
©全国農業共済協会2018  
<http://www.nosai.or.jp/>

## ズバリ直言

金丸 弘美

米の売り方の提案をしている。それには三つある。①食べ方とレシピの提案②健康な食べ方の提案③環境の提案―だ。講師をしている女子大で毎年、朝食に何を食べているかのアンケートをとっている。1人は40%、

パンが30%、ほかは果物、ヨーグルトなどとなっている。彼女たちの関心のいちばんはダイエット・美容。米を少なくする糖質制限ダイエットも広がっている。医者の健康本でも生活習慣病対策で大きく登場している。

農林水産省の統計をみると、この40年間で米の消費量は半分以上となり、米とパンの消費額が逆転している。パン売り場をのぞくと種類が

## 三つの米の売り方を提案

多くあり、カフェがセットになっているところが少くない。ところが、米の販売で食べる場まであるところは極めて少ない。地方の直売所もそうだ。

東京都は今、高齢化率が20.76%。1世帯当たりの人数が1.99人にな

っている。23区内の一人暮らしは51%。近所のスーパーでは、米の販売形態は3合が中心で最近では2合も多く、そのあと1合、2斗になっている。1世帯で食べる米は月2斗だ。地方からブランド米の売り出しが盛んだが、その数は飽和状態で、消費者が簡単には選べないほど。

「おいしい」「環境にやさしい」など抽象的なアピールでは米は売れない。具体的に、健康的なバランスのいい食べ方、米の環境履歴など背景やレシピまでの提案が求められている。  
(食環境ジャーナリスト、食総合プロデューサー)